

### ③現在の利水状況

これまでは過去における利水の歴史について農業を主体とした高津川の利水を調査してきた。その結果は時代の移り変わりによって流域の人々は当時のあらゆる努力を計って高津川を有利に利用せんとしたことがわかる。そこには地域間の対立も大なり小なり再々、あったに違いない。しかし全体的に見れば大自然のまま高津川の変遷に順応した利用態形を取ってきたようである。近年のように土木技術が発達し、各種産業の発展した現在、その利水状況はどのようになっているのかを述べてみる。

#### (1) 現在の利水状況

近年における高津川基準点高角における流況は表4-1の通りである。これによると高津川の年間総流出量は16.7億 $m^3$ （S43～49年平均）である。又渇水流量は昭和48年の5.37 $m^3/sec$ が最も少なく、平均すれば10.65 $m^3/sec$ でありこの値は近年、理想時な維持流量の目安1 $m^3/100km^2$ をほぼ満足し、上流にダム等の流量調整施設のない河川でありながらかなり流況は良いことがわかる。この理由としてはその源を中国山地の年総雨量2000mm近くにも達する地区に発し、さらに広大な森林地帯を持つ恵まれた流域構成からであろう。

表4-1 高角地点流況

年 (昭和)	流 況 ( $m^3/S$ )						年平均 ( $m^3/S$ )	年総量 ( $\times 10^8 m^3$ )
	最 大	最 水	平 水	低 水	渇 水	最 小		
43	34593	5352	28.28	17.19	7.53	4.30	44.10	1,394
44	86375	5171	29.56	16.83	6.07	5.33	46.19	1,457
45	388.87	4264	28.95	20.26	14.07	10.92	43.47	1,371
46	1,35926	4629	27.93	15.87	9.23	8.53	49.93	1,575
47	295013	7660	53.46	34.28	18.32	15.36	86.97	2,750
48	473.66	5852	19.36	11.28	5.37	1.00	44.04	1,389
49	124650	4836	30.78	21.58	13.98	10.96	54.48	1,718
平均	1089.73	5395	31.19	19.61	10.65	8.06	52.74	1,665



## (2) 開発計画

高津川は島根県の西部に属し、いわゆる石西地域の開発計画の中で水質源の重要な要素である。石西地域の開発計画は農林省、工業、商業等各産業に渡ってさまざまな開発計画が進められているが、その中で水質源開発に関係するものを掲げると次のようである。

昭和 49 年の下流部における水需要の推定は工業用水 80,000 m<sup>3</sup>/日、都市用水 17,000 m<sup>3</sup>/日、農業用水として 3,000 m<sup>3</sup>/日でこれらを年間に換算すれば約 2 億 m<sup>3</sup>程度が利用されているものと推定している。

これが 10 年後の昭和 65 年頃にはどの程度の新規利水が見込まれているかを現在計画されているものを集約すると農業、工業、都市用水合わせて新規に 160,000 m<sup>3</sup>/日程度が必要とされている。これは現在と合わせると年間の利用水量は約 5 億 m<sup>3</sup>にもなる訳で、これらの諸計画を遂行するための根本となるものは高津川の有効な水資源の開発であろう。

現在当地域で行なわれている関係事業の中に益田国営総合農地開発事業があり農林省によって進められている。この事業は現在の益田市の農地にほぼ匹敵する面積の農地を開発しようというもので、その水源を高津川に求めて計画施工されているがその概要を示す。